

作文

注意

* 答えは、解答用紙の決められた場所に書きましょう。
* 問題用紙は二枚あります。

【1枚目】

受検番号

次の詩と文章をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

(著作権保護のため削除)

「よく学び、よく遊べ」という言葉がありますが、あなた方より一時代前の人たちは、外で、友だちや近所の子との遊びを通して、心に残ることを一つ一つ体験し、学ぶことができました。年上の子もいました。年下の子もいました。この犀星の詩はもっと昔のことです。しかし、遊びの内容や場所は変わっても、遊びの大切さは、昔も今も変わらないのかもしれない。そうあってほしいものです。

子どもたちにとってもっとも楽しい遊び、もっとも大切な遊びの約束。物と遊ぶのではなく人と遊ぶのですから。大人である「わたし」にとって、たとえその場所が「いい草のかおり」のしないほこりだらけのところでも、「楽しいそうには見えない」ただのちよつとした空き地でも、「寒い風が吹いている」ようなガランとしたところであっても、子どもたちにとってはここでボールを蹴ったり、追いかけてっこをしたりする大切な場所なのです。ですから「此処へあつまるのだ」と誓って別れるのです。

(萩原昌好^{はぎわらまさよし}『少年少女のための日本名詩選集・6 室生犀星』による。)

(注) 室生犀星 Ⅱ 大正から昭和にかけて活やくした詩人。
それなのに Ⅱ 「それなのに」と同じ意味。

1 ~~~~~ 線部で、「明日もまた遊ぼう！ 時間をまちがえずに来て遊ぼう！」とありますが、この言葉から子どもたちのどのような思いが感じられるでしょうか。書きましょう。

2 ——— 線部で、「年上の子もいました。年下の子もいました。」とありますが、年上の子や年下の子と遊ぶことには、それぞれどのようなよいところがあるとあなたは考えますか。書きましょう。

3 この詩と文章を読んで、感じたことをもとに、あなたはどのような中学校生活をおくりたいと思いますか。百二十字以上、百六十字以内で書きましょう。
原こう用紙の使い方に注意して、題や氏名を書かないで、本文だけ書きましょう。

作文

【2枚目】

受検番号

二

次の文章は、平成十四年にノーベル化学賞を受賞した田中耕一さんの小学生時代の話です。理科の時間に水を熱して変化するように調べたときのこと書かれています。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

(著作権保護のため削除)

(国松俊英『理科室から生まれたノーベル賞——田中耕一ものがたり』による。)

(注) ホウ酸の実験 II ホウ酸のかわりにミョウバンを用いても同じようすが観察できる。

1 線部①で、「なにもない」ということはないよ」と言っていますが、図のアの部分は、なぜにも見えないのでしょうか。説明しましょう。

2 線部②で、「ホウ酸といっしょだ」とあります。このとき耕一は、どのようなところがいっしょだと思ったのでしょうか。書きましょう。

3 花子さんはこの文章を読んで、ホウ酸のかわりに食塩で同じ実験を試みましたが、温度を下げてても食塩はほとんど出てきませんでした。食塩とホウ酸の水にとける量を比べた下のグラフを見て、なぜ食塩が出てこなかったのか、考えられる理由を書きましょう。また、どうすれば食塩をすべて取り出せるか、その方法を書きましよう。

グラフ 100mlの水にとける食塩とホウ酸の量



